

不祥事を繰り返す組織に共通する要因

○武藤 敬子¹、張 坤²、山形 浩史²

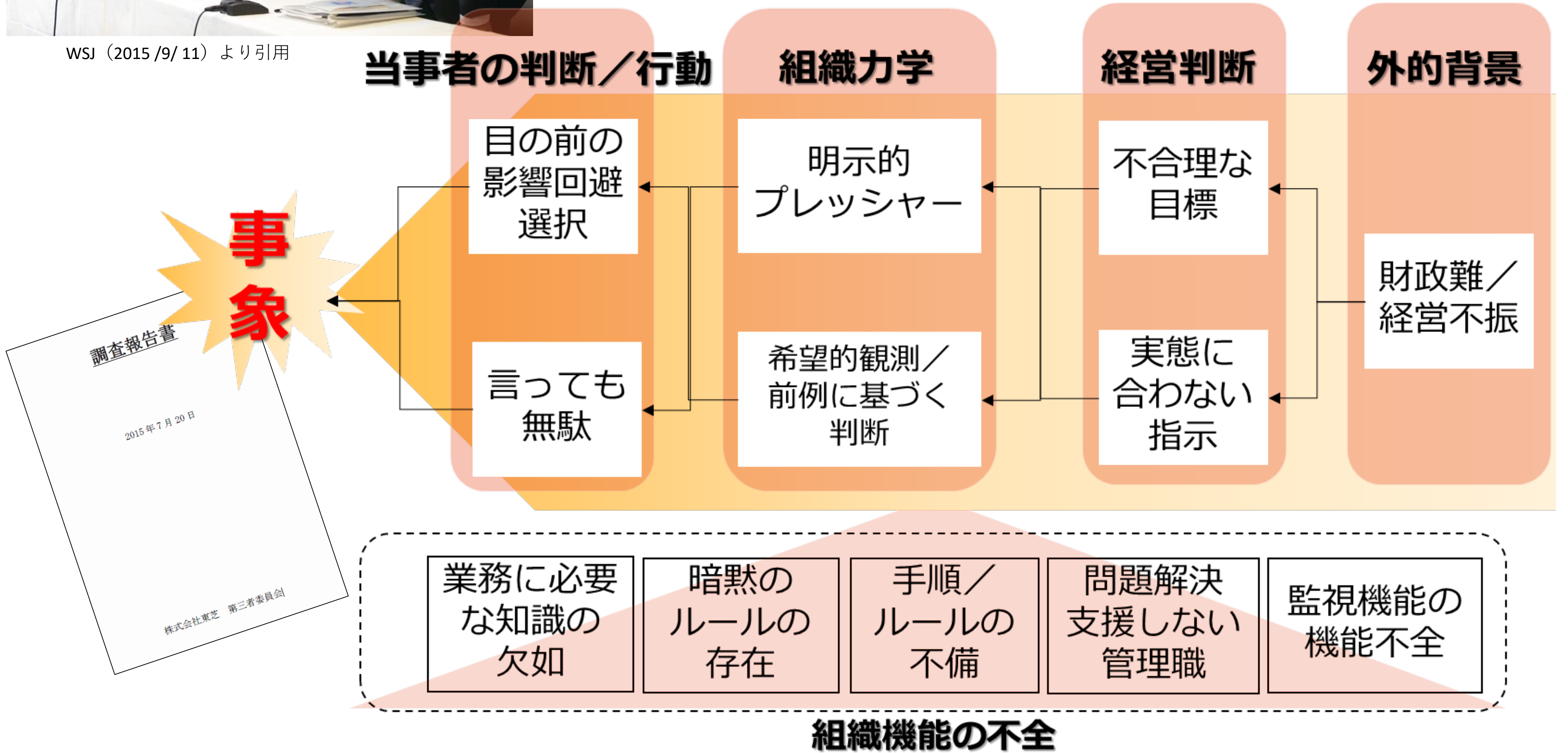
(1. 長岡技術科学大学システム安全工学専攻、2. 長岡技術科学大学)



WSJ (2015/9/11) より引用

本稿の「不祥事」の定義：

組織（経営者、従業員等）が引き起こした、組織自体（企業、従業員等）のみならず、その利害関係者（社会、業界等）にも悪影響を与える**事件や事故**



方法と結果：

記載方法の異なる報告書を比較し共通要因を抽出するために、文章記述から、どのような出来事がどのように関係して不祥事に至ったかの情報を抽出、「なぜなぜ分析」の形で整理した。次に、複数の不祥事に共通する「事柄」に、それらを表象する「キーワード（現時点で14）」を付与し集約した（右図）。

併せて、なぜなぜの形での情報整理におけるキーワード出現の前後関係から、異なる不祥事間においても、キーワードを付与した事象の影響を及ぼしている様も共通している様が見られた。

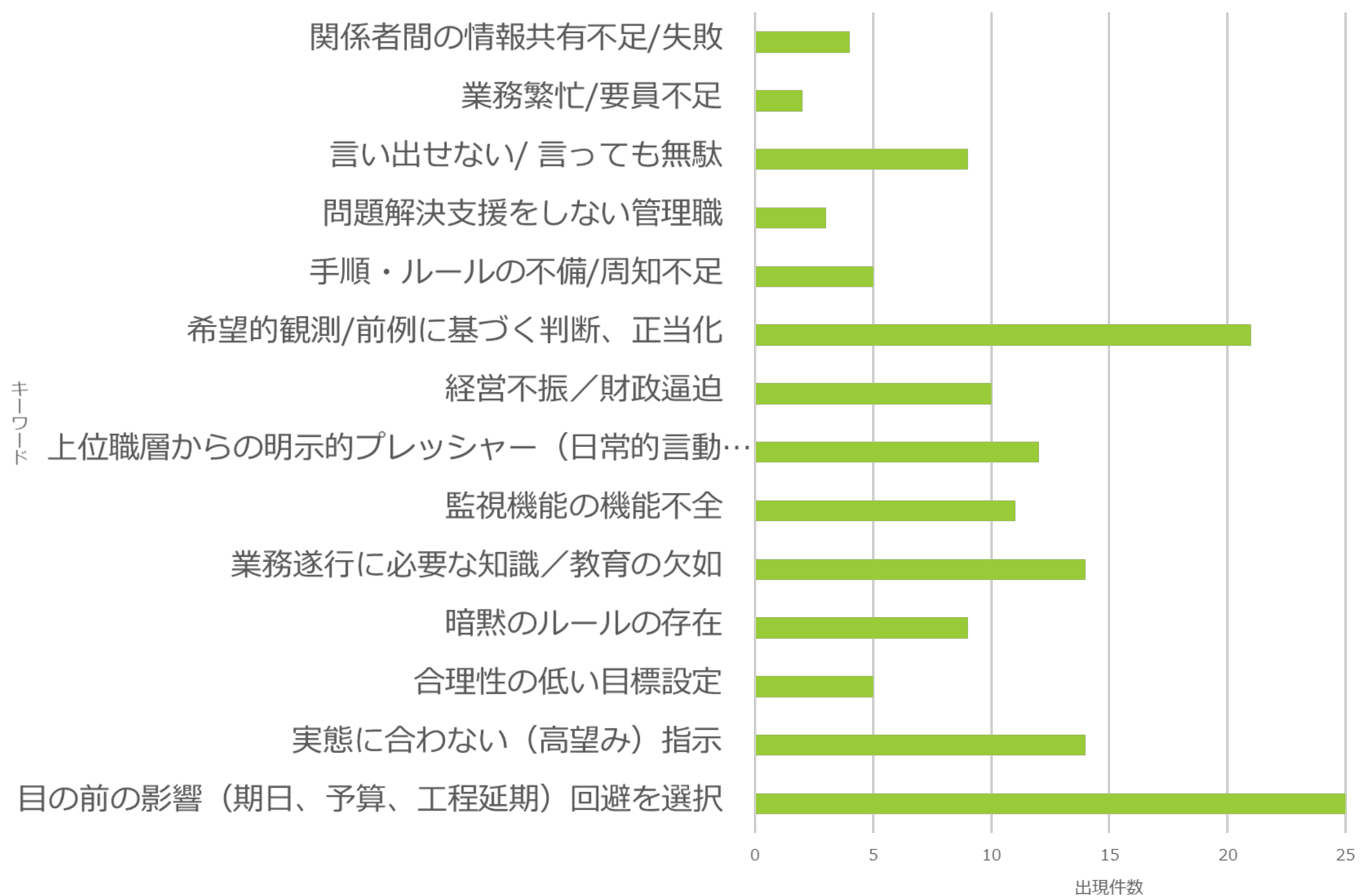


図2 キーワード出現回数

考察：

構造についての仮説を上図に示した。

○外的背景に影響を受けた経営判断を踏まえ、不合理な組織の力学が働くようになり、事象を引き起こす当事者の判断や行動に至る流れ

○事象に至る流れを加速させる効果を持った組織機能の不全の存在

今後の課題：

不祥事の整理件数を増やすとともに、キーワードとその構造化の精査ならびに統計処理による確認を進めることで、対策の優先順位付けや、対策の実施効果の測定方法に資することを狙う。